

リバルエン<sup>®</sup>LAパッチ

# 認知症 Monthly WEBセミナー

日時

2026年 3月 23日 (月)  
19:00 ~ 20:00

追っかけ再生あり ※21時までに視聴開始した方に限り、好きな個所からご覧いただけます。

座長

甘利 雅邦 先生

公益財団法人老年病研究所附属病院  
脳神経内科副院長・認知症疾患医療センター長



## 地域医療におけるリバルエン<sup>®</sup>LAパッチへの期待 ～独居支援のための新たな秘策～

演者

小林 直人 先生

医療法人湖山荘 あずま通りクリニック 院長



## 地域での認知症対応多職種チーム

演者

鷺見 幸彦 先生

社会福祉法人仁至会  
認知症介護研究・研修大府センター センター長



下記視聴予約URL又は二次元コードより事前お申込みの上、ご視聴ください。

<https://re.m3dc.live/towayakuhin20260323>

視聴登録いただいた先生方へ弊社MRが訪問させていただくことがあります。  
ご提供いただきました個人情報は、ご視聴いただいた先生の確認のほか、  
今後のセミナー・イベント、弊社製品に関するご案内のために使用します。  
個人情報は、業務委託先以外の第三者に開示・提供することはありません。  
個人情報は、弊社の個人情報保護方針に基づき安全かつ適切に管理いたします。



主催：東和薬品株式会社

## ■ 講演要旨 ■

### 地域医療におけるリバルエン®LAパッチへの期待 ～独居支援のための新たな秘策～

小林 直人 先生（医療法人湖山荘 あずま通りクリニック 院長）

急速な高齢社会の進展に伴い、地域医療の現場では独居高齢者、とりわけ認知症患者への薬物療法の継続性が大きな課題となっている。服薬忘れや薬の飲み過ぎは治療効果の低下や症状悪化を招き、生活機能の維持を妨げる要因となる。リバルエン®LAパッチは週2回貼付で治療が可能な経皮吸収型製剤であり、貼付回数の少なさと視覚的な管理の容易さから、独居認知症患者においても高いアドヒアランスが期待される。本講演では、地域医療における認知症診療の現状と課題を整理した上で、リバルエン®LAパッチの特性が独居支援に果たす役割について実臨床の視点から考察し、今後の地域包括ケアにおける活用の可能性を検討したい。

### 地域での認知症対応多職種チーム

鷺見 幸彦 先生（社会福祉法人仁至会 認知症介護研究・研修大府センター センター長）

認知症の人に対して、多職種での対応は病院における多職種チーム、地域における多職種チームがあり、それぞれの有用性が検討されてきた。地域での認知症対応多職種チームは、平成27年から全国の市区町村に設置された認知症初期集中支援チームがこれに相当する。令和6年12月に閣議決定された認知症施策推進基本計画の中で、このチームは「複数の専門家が、認知症が疑われる人や認知症の人及びその家族を訪問し、観察・評価を行った上で、家族支援等の初期の支援を行う。」と定義され、こちらから対象者を訪問する点に特徴がある。今後確実に増加が予想される独居の認知症者に対する活動が期待されている。本講演ではこのチームの今後のあり方、医療との連携について述べる。

お問合せ先 東和薬品株式会社 営業本部 営業戦略統括部 営業企画部 営業推進課  
eigyousuishin@towayakuhin.co.jp